



## 指標の分析

平成30年度の実績値は前年度比より5%向上し、目標値を上回る結果となった。

## 4. 施策の評価

### これまでの主な取組と成果

- ①通信指令管制事業では、教育研修計画に基づき、新任指令員及び現任指令員に対して、定期的な口頭指導研修及び効果確認を実施することにより、通報者への口頭指導技術は向上している。
- ②救急医療情報案内事業では、休日夜間病院案内の運用により、市民が119番にダイヤルし指令員が直接病院紹介に対応することの減少及び、救急車の適正利用に貢献した。
- ③災害情報案内事業では、市民サービスの一つとしてテレホンサービスを使用した災害情報案内を行った。また、災害情報メールによる通知及びホームページからの情報入手等のサービスにより、災害発生時の119番への問合せが減少した。

### 今後の課題

- ①通信指令管制事業で示す指標は、心肺機能停止傷病者の状況等に影響される数値ではあるが、平成30年度の実績値は上がっている。通報者が適切な応急手当(心臓マッサージ等)を継続できるよう、指令員の口頭指導技術の向上に努め、将来は応急手当実施率を100%に近づける必要がある。
- ②救急医療情報案内事業では、休日夜間病院案内の利用を更に促進する。
- ③災害情報案内事業では災害発生時における119番への災害発生状況の問い合わせによる指令受信業務の負担の軽減を図るため、テレホンサービス及び市民向け災害情報メール配信の活用を促進する。

### 今後の展開

- ①通信指令管制事業では、計画的な新任研修及び現任研修を継続し、指令員の経験年数や技術に応じたカリキュラムの見直し等を行い、指令員の更なる高度化を図っていく。
- ②救急医療情報案内事業では、救急キャンペーンなどのイベント等を通じて、保健関連機関等と連携し休日夜間病院案内を積極的にPRする。
- ③災害情報案内事業では、テレホンサービス及び市民向け災害情報メール配信をホームページや消防フェア等のイベントを通じて多くの市民に利用されるよう広報活動をしていく。

5. 構成事務事業の評価

事務事業名	主要施策名	事業種別	平成30年度	事務事業 評価/ 総合評価	有効 度	優 先 度
			決算額(千円)			
1 通信指令管制事業(消防局)	331 消防通信業務の効率的運用	行政管理(各種計画の策定、進行管理/法律等)	32,118	B 1	B	B
2 救急医療情報案内事業(消防局)	331 消防通信業務の効率的運用	行政管理(普及・啓発・対策/任意)	224	B 1	B	B
3 災害情報案内事業(消防局)	331 消防通信業務の効率的運用	行政管理(広報・広聴/任意)	528	B 3	B	B
4			0			
5			0			
6			0			
7			0			
8			0			
9			0			
10			0			
11			0			
12			0			
13			0			
14			0			
15			0			
16			0			
17			0			
18			0			
19			0			
20			0			
小 計			32,870			
合 計			32,870			

構成事務事業の 適当性	消防通信体制の強化に向けた通信指令管制事業、住民へのサービス向上を目指す救急医療情報案内事業及び災害情報案内事業の取り組みは、着実にその成果が表れており、構成事務事業の適応性は高いものと評価する。
----------------	--